

国府小学校体育館 62年度に改築

国府地区
市政懇談会

市政全般について幅広く話し合った



十二月二日夜、公民館事業の一環として国府公民館（乾常美館長）で市政懇談会が開かれました。地元からは二十五人が出席。市からは小笠原市長、浜田助役、関係課長らが出席して、地区の抱える問題や市政全般について幅広く意見交換を行いました。

討議内容は

まず、小笠原市長が「市政の根幹は空港、財政再建、同和対策の三つだが、空港は事実上、騒音対策だけに終わった。これからは教育施設の充実と産業振興にも努力していくので皆さんのご協力をお願いしたい。特にミロク機械が操業できる段階になったのはこの地域の皆様のおかげだと感謝している」とあいさつし、話し合いに入りました。

○市の財政事情、行政改革について概況説明を。

●表面的な赤字は消えているが、開発公社への借金の支払いがある。比江山の処分関係では、カシオ計算機へ七億円、ミロク機械へ四億円余りで売却したが、この決算をすると代替のグラウンドの問題を除いて三億ないし四億円の赤字になる。そのほかの開発公社への借金は今年の春現在で十億円近くある。これを年に二億円ずつ返すというところでやっているが、いろいろな所からの要求が非常に多くなつて、今年の予算では返す計画のめどがついていない。そこで行政改革が必要になってくる。行政改革の進め方については、市内の有識者からなる行政改革懇談会を組織し、昨年六月に行政改革大綱を作った。その中に支所の廃止、職員の定数や給与の見直しなどが取り上げられている。行政改革はあらゆる面から無駄を無くすという

ことと分不相応な事業をしないとすることだ。これをやっていると、そのつけは何年後の人が背負わなければならなくなる。議員、市民、職員の協力を得て、できるものはすぐ、急にできないものは粘り強く三年をめどに財政の立て直しをしようという考えだ。

○国府小学校の体育館の改築について現在の状況を詳しく。また、社会体育にも使用したいので、設備などについて地元の意見も採り入れてほしい。

●体育館は六十二年度に完成させたいと考えている。用地買収、土地造成、水路の付け替え工事の施工については、あらためて相談を申し上げご協力をいただきたい。

社会体育に利用できる設備などについては、義務教育施設として建設するので、まず学校長と十分に協議して決めていきたい。

○比江山のグラウンドの代替地を早急に確保してほしい。

●グラウンドの代替地についてはそれぞれの地区の関係者にご協力願って、いくつかの候補地を選んで交渉したが成功しなかった。現在、グラウンドに使っている所はカシオ計算機に売却しているが、工場を建てるまでは無償で南国市が使用してもよいという契約になっている。カシオ計算機の進出は五年をめどということなので、そ

の間に地元のご協力を願って代替地の確保に努力したい。

○比江で発掘調査が行われているが今後の動向について説明を。

●今年は国、県の補助を受けて市が事業主体になり発掘しているが、来年からは従来どおり県の事業主体で続けていく。文化庁の調査官の話によると、国でも土佐の国衙について非常に高い関心を持っているが十年も十五年も続けてやるわけにはいかないもので、後一、三年の内に国庁跡を見つけたということだ。県としてもせっかく始めたので全力を挙げて取り組みたいとの話だ。またあらためて地区の方、地権者の方にも相談したいと考えている。

そのほか、「家庭用排水の処理施設を早急に望む」「左右山鍋蓋線の危険箇所補修を」「北部山崎養鶏場を中心とする総合開発問題について」「左右山―国分、左右山―笠の川の市道の補修を」などの要望や意見が出ていました。

